

KANDAI NEWS

■ 関大ニュース・第21回オリンピック冬季競技大会(2010/バンクーバー)特集

2010 VANCOUVER XXI Olympic Winter Games

高橋選手が銅メダルを獲得 織田選手も7位に入賞

バンクーバー五輪で高橋大輔さん(大学院2年次生)と織田信成さん(文学部4年次生)の関大コンビが活躍しました。高橋さんはフィギュア男子で日本男子史上初のメダルを獲得。また織田さんは初出場にもかかわらず7位入賞を果たしました。



◀ショートプログラムの高橋選手の演技

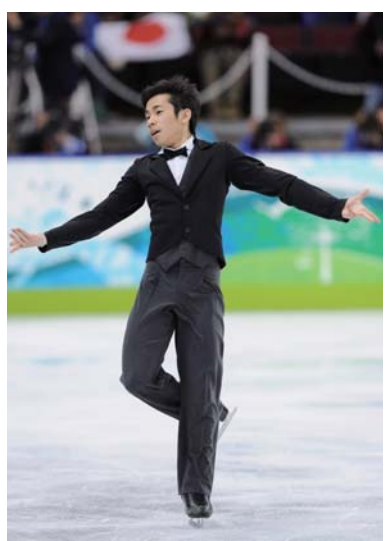
日本時間で2月17日に行われたショートプログラムでは、高橋さんはノームスの演技で自己ベストの90.25点を出し、第3位。また、織田さんも84.85点で第4位となり、両選手とも首位との差が6点以内という絶好の位置につきました。

そして、2月19日のフリー。20番目に登場した織田さんは競技中に靴ひもが切れるというアクシデントがありましたが、会場の温かい手拍子に乗せられる

フリーでチャップリンを演じる織田選手▶

ように、最後まで滑りきりました。また、高橋さんは冒頭の4回転ジャンプこそ失敗しましたが、その後のジャンプはきっちり決め、豊かな表現力と世界一と言われるステップで観客を魅了。イタリア映画音楽『道』をしっかりと演じきって、最後はガッツポーズまで飛び出しました。一昨年のひざの故障から見事に復帰し、前回トリノ五輪の8位の経験をもとに、日本男子悲願のメダル獲得となりました。

現地向向いている関大応援団の楠見晴重学長からは「高橋君は銅メダル、本当によかった。また、織田君はアクシデントもあったが、最後までよくがんばった」とねぎらいの言葉がありました。



公開練習会・壮行会を開催

1月12日、公開練習会と壮行会が開かれました。午前中にアイスアリーナで行われた練習会には、約700人が観戦。最後の調整に入った2人の動きに、場内から歓声が上がりました。また午後にはBIGホール100で壮行会を開催し、学生、教職員約1,000人が参加。甲子園ボウルで優勝したアメリカンフットボール部員も激励に駆けつけました。

楠見学長、応援団長ら7人が現地で応援



2月15日、高橋さんと織田さんに熱い声援を送るべく、楠見晴重学長、田中成典学生センター副所長、寺内俊太郎校友会会長及び新旧の応援団長ら7人の関大応援チームがバンクーバーに向きました。大阪よりやや暖かい気候の中、会場では、関大生が寄せ書きした応援メッセージを掲げて応援を繰り広げ、両選手を大きく激励しました。また、学長をはじめ、応援団長の森山佳広さんと前応援団長の鈴木那和さんへの取材も多く、現地でのメディア対応に笑顔で応じました。

バンクーバーに向けて大声援

「バンクーバー五輪・高橋大輔さんと織田信成さんの応援会」が2月19日、総合学生会館「メディアパーク凜風館」で開かれました。ショートプログラムで高橋さんは3位、織田さんは4位と2人ともメダル獲得が濃厚であったため、会場は約700人の学生をはじめ、教職員、地域住民で満員になりました。日頃から練習を共にする、アイススケート部副主将の澤田亜紀さんと4大陸フィギュアスケート選手権2位の町田樹さんも参加。メガホンなどの応援グッズを手に、バンクーバーに向けて大声援を送りました。



高橋選手と織田選手に大声援を送る学生や教職員、地域住民の方々